

これまでの検討経緯

ハザードマップのユニバーサルデザイン
に関する検討会（第5回）
令和5年3月17日

ハザードマップのユニバーサルデザインに関する検討会のこれまでの経緯

【ハザードマップの課題】

- ・情報の理解には一定のハードルがあり、活用に結びついていない場合がある
 - ・利用者の特性(例えば視覚障害)に対応しておらず、ハザードマップの情報へのアクセスが困難な場合がある
- ⇒ 本検討会を設置し、「わかる・伝わる」ハザードマップのあり方について検討。

【これまでの検討会等の開催状況】

○第1回検討会

日時: 令和3年12月23日(木)10時00分～12時00分
場所: NATULUCK半蔵門 会議室

○第2回検討会

日時: 令和4年3月11日(金)13時00分～15時00分
場所: 中央合同庁舎3号館 11階 インフラ DX ルーム

○第1回ワーキング会議

日時: 令和4年5月23日(月)15時00分～17時00分
場所: 大田区民プラザ会議室3階

○第3回検討会

日時: 令和4年7月22日(金)10時00分～12時00分
場所: TKP麹町駅前会議室

○第4回検討会

日時: 令和4年11月29日(火)15時30分～17時30分
場所: 中央合同庁舎2号館 第2会議室A

○第2回ワーキング会議

日時: 令和4年12月20日(火)15時00分～17時00分
場所: 大田区民池上会館 2階 第1会議室

【委員】(◎:座長、敬称略)

磯打 千雅子 香川大学 地域強化研究センター 准教授
奥寺 弓子 東京都大田区 総務部 防災危機管理課 防災支援担当課長
梶谷 匡佑 ヤフー株式会社 メディア統括本部 メディア企画デザイン2本部
天気・災害企画デザイン部デザインリーダー
阪本 真由美 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授
柴田 健剛 日本放送協会 報道局 災害・気象センター 副部長
◎ 田村 圭子 新潟大学 危機管理本部 危機管理室 教授
中野 泰志 慶応義塾大学 経済学部 教授
三宅 隆 日本視覚障害者団体連合 組織部長

【第4回検討会(令和4年11月29日)の概要】

Webアクセシビリティへの対応

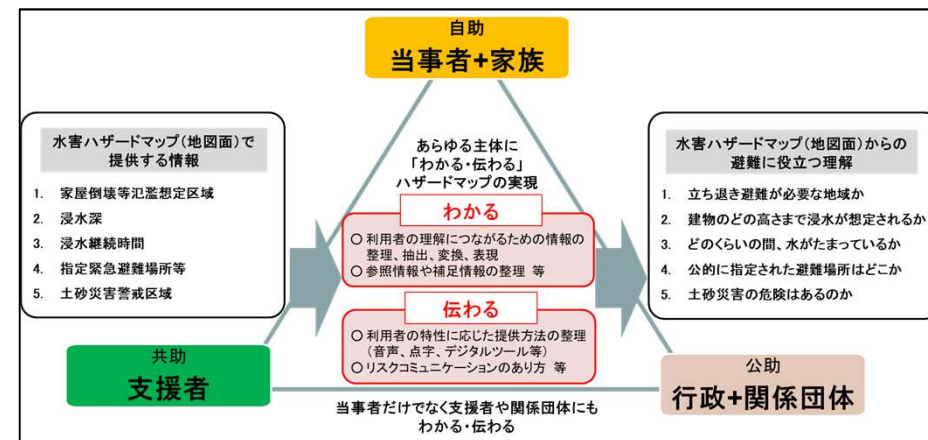
- 「重ねるハザードマップ」の改良では、**障害当事者に検証を行うことが大切**であり、ガイドラインへの準拠だけでなく、**ハザードマップの情報が当事者に明確に伝わるかどうかを最終的な評価ポイントとして設定**することが大切であることを確認した。

ハザードマップの「情報・学習編」の充実

- 事務局から提示された情報・学習編テストサイトの「水害を知る」「リスクを知る」「対応を知る」構成は、**非常にわかりやすく整理されていると同時に、全国で共通化されるのは良いこと**であることを確認した。

本検討会の骨子案について

- 前段に「ユニバーサルデザイン化の**取組経緯**」「受け手側の**環境の醸成**」「**共助や地域の力**が不可欠」を追加
- 終わりに「ハザードマップの**存在意義**」「**速やかな情報更新と周知**」を追加
- 報告書自体も高いアクセシビリティで作成**



ワーキング会議の様子



「ハザードマップのユニバーサルデザインに関する検討会(第4回)」議事概要

第4回検討会を令和4年11月29日に開催し、ハザードマップの「情報・学習編」の充実、アクセシビリティへの対応、検討会報告書の骨子案について議論し、ご意見をいただいた。

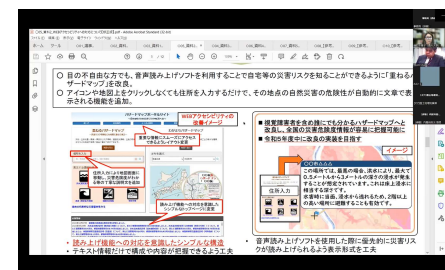
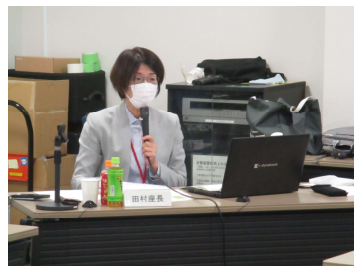
■第3回検討会の開催状況

日時: 令和4年11月29日(火)15時30分～17時30分

場所: 国土交通省合同庁舎2号館 第2会議室A

委員: (◎: 座長、敬称略)

- | | |
|---------|---|
| 磯打 千雅子 | 香川大学 地域強靱化研究センター 准教授 |
| 梶谷 匡佑 | ヤフー株式会社 メディア統括本部 メディア企画デザイン2本部
天気・災害企画デザイン部デザイン リーダー ※欠席 |
| 奥寺 弓子 | 東京都大田区 総務部 防災危機管理課 防災支援担当課長 |
| 阪本 真由美 | 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授 |
| 柴田 健剛 | 日本放送協会 報道局 災害・気象センター 副部長 |
| ◎ 田村 圭子 | 新潟大学 危機管理本部 危機管理室 教授 |
| 阪本 真由美 | 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授 |
| 中野 泰志 | 慶応義塾大学 経済学部 教授 |
| 三宅 隆 | 日本視覚障害者団体連合 組織部長 |



■第4回検討会の主な意見

ウェブアクセシビリティ対応について

- 国土交通省の取り組みである「重ねるハザードマップ」の音声出力対応は良い方向性である。住所入力後に音声出力する予定のテキスト内容や操作性については、**障害当事者に検証を行うことが大切**である。
- 国土交通省の取り組みである「重ねるハザードマップ」では、住所入力したジャストポイントが浸水せずに、周辺が浸水する場合に誤解を与える可能性があるため、周辺のリスクの伝え方も今後検討することが望ましい。
- 障害のない人と同等の情報だけでは障害のある人には足りない場合があり、例えば、車椅子で通行できない避難経路などを示していただけるなどの工夫も今後検討して欲しい。
- ウェブアクセシビリティのガイドラインへの準拠だけでなく、**ハザードマップの情報**が当事者に明確に伝わるかどうかを最終的な評価ポイントとして設定することが大切である。
- 障害当事者への検証を行う際には、各地域で多様な障害のある方の声が集約できているか重要である。その際には各種団体
- **ハザードマップの存在を障害当事者だけでなく、支援者を含めた一般の方にも広く知ってもらうことが重要**であるため、自治体でどのように周知するか検討する必要がある。また、日視連などの団体と提携していくのも一つの方法である。
- **障害当事者が防災訓練等に参加する場を創出**することも非常に大切である。

ハザードマップの「情報・学習編」の充実について

- 事務局から提示された、「水害を知る」「リスクを知る」「対応を知る」構成は、**非常にわかりやすく整理されている**。
- 「行動に移す」に「リスクを知る」がどのように関連するのかが記載できると更に良いと感じた。

- 必要最低限伝えるべき情報・学習編の事務局案の文案には、以下の情報内容を追記頂くと良い。
 - ・ 平時の心備え
 - ・ 支援者への注意してほしいポイント
 - ・ 障害のある方へのメッセージ
 - ・ 情報取得のツールについて
- 解説文は、「**分かりやすい点**」と「**どう伝わるか**」の両立が大切である。
- ハザードマップは、各自治体でばらつきがある中で、情報・学習編の事務局案を基に**全国で共通化されるのは良いこと**である。

本検討会の骨子案について

- 報告書前段に、「**ハザードマップのユニバーサルデザイン化に取り組んでいくことになったのか**」を、記載すると、更に読み手に伝わる報告書になると感じた。
- 報告書前段に「ハザードマップとは何か」について記載すると良い。
- 各種ツールには、メリットだけを強調するのではなく、デメリットも記載する。また、使い方についても記載する。
- 今後の展開に記載されている「**情報の受け手側の環境の醸成**」「**共助や地域の力が不可欠**」は、**基本的な姿勢**であるため、前段に記載いただきたい。
- 視覚情報に焦点を置いているが、聴覚障害などへの対応も今後の課題として記載する。
- 終わりにでは、「**ハザードマップは使っていただき、行動に繋がることで存在意義がある**」「状況変化に応じ、**速やかに情報更新し、広く周知し、浸透させる**」というような内容を記載すると良い。
- 国土交通省の各種検討会の報告書は、PDF(画像データ)のみで提供しているのが多く、視覚障害者にとってはアクセスしにくい。テキストもしくはワードデータ、音声読み上げ対応等での提供により、**今回の報告書自体をアクセシビリティの高い方法で情報提供を行う**ようにすること。